

## 16日 水曜

### 創世記

47:23 ヨセフは民に言った。「見よ。私は今、おまえたちとおまえたちの土地を買い取って、ファラオのものとした。さあ、ここに、おまえたちのための種がある。これをその土地に蒔きなさい。

47:24 収穫の時になったら、その五分の一はファラオに納め、四分の四は自分のものとしなさい。畑の種にするため、自分の食糧にするため、家の者のため、また扶養すべき者たちの食糧のために、そうしなさい。」

47:25 すると彼らは言った。「あなた様は私たちを生かしてくださいました。私たちは、あなた様のご好意を受けて、ファラオの奴隷となりましょう。」

47:26 ヨセフは、エジプトの土地について、五分の一はファラオのものとしなければならないという、一つの掟を定めた。それは今日にまで及んでいる。ただし、祭司の土地だけはファラオのものとならなかった。

47:27 さて、イスラエルはエジプトの国でゴシェンの地に住んだ。彼らはそこに所有地を得て、多くの子を生み、大いに数を増やした。

47:28 ヤコブはエジプトの地で十七年生きた。ヤコブが生きた年月は百四十七年であった。

47:29 イスラエルに死ぬ日が近づいたとき、彼はその子ヨセフを呼び寄せて言った。「もしおまえの心にかなうなら、おまえの手を私のももの下に入れ、私に愛と真実を尽くしてくれ。私をエジプトの地には葬らないでほしい。

47:30 私が先祖とともに眠りについたら、エジプトから運び出して、先祖の墓に葬ってくれ。」ヨセフは言った。「必ずあなたの言わ



れたとおりにいたします。」

47:31 イスラエルは言った。「私に誓ってくれ。」ヨセフは彼に誓った。イスラエルは寝床の枕もとで、ひれ伏した。

民がヨセフに感謝していることがわかります。ヨセフは、民のためにも、パロのためにも、長期的な視点で安定と繁栄がもたらされるように指導して、その責務を果たしています。その根底は何よりも、平和と慈しみの神の御心です。ですからヨセフは自分の権力増大のためには何もしてはいません。

私たち信仰者にもこの世での責務が与えられています。多くの人々は神を無視しながら生きていますから、そのような価値観とは一線を画すことにはなりますが、しかしヨセフのように神の正しさと愛を表すために、世で力を持つことも大切なことです。それは主の愛を表すためです。

残念ながら、この後エジプトはヨセフからの恩恵を忘れて、イスラエルを迫害します。しかしヨセフやイスラエルの善行は無駄ではなく、後に助産婦や王妃の助けなどにもつながったと言えるでしょう。世にあって責務を誠実に果たすこと…。それは伝道にもつながりますし、神の計画にも役立つことができるのです。

ヤコブは死期が近いことを悟り、人生のまとめをしようと思ったのでしょうか。その人生が主に導かれたものであったことを子孫に伝えようと、信仰の地に葬られることを願いました。「自分の人生がどのように人に伝わるか」を考えることも重要です。また「孫や子に、信仰をどのようにし残すのか」ということも、考えるべきでしょう。それが愛する子どもや孫への、最も大切な愛です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

